

(公開学習Ⅱ) 第5学年2組 道徳学習指導案

授業者 木原 一彰
5年2組教室

1 主題名 自分の役割を自覚して(主として 4-(3) 役割・責任)

2 資料名 小川笙船(私たちの道徳 小学校5・6年)

3 授業構成

(1) 題材の価値と魅力

本校の道徳の時間の目標は、「各教科等と道徳教育との密接な関連を図りながら、これを補充・深化・統合し、道徳的価値の自覚及び自己の生き方についての考え方を深め、児童の道徳性を育成する」である。本題材は、小学校学習指導要領解説道徳編第5学年及び第6学年の内容に次のように位置づけられている。

第5学年及び第6学年の内容

1 4 主として集団や社会とのかかわりに関すること

(3) 身近な集団に進んで参加し、自分の役割を自覚し、協力して主体的に責任を果たす。

「指導計画の作成と内容の取り扱い」3

(3) 先人の伝記、自然、伝統と文化、スポーツなどを題材とし、児童が感動を覚えるような魅力的な教材の開発や活用を通して、児童の発達の段階や特性等を考慮した創意工夫ある指導を行うこと。

『小学校学習指導要領解説道徳編』では、「道徳性のとらえ方」について、「道徳性とは、人間としての本来的な在り方やよりよい生き方を目指してなされる道徳的行為を可能にする人格的特性であり、人格の基盤をなすものである。それはまた、人間らしいよさであり、道徳的諸価値が一人一人の内面において統合されたものといえる。」とある。また、「ウ 道徳的価値の自覚を深めること」においては、「人間は、友達や回りの人々に親切にしなければならないと分かっている、心が動かないこともあるし、それを態度化し、行動に移せないこともある。また、人間を尊重するといっても、意見や感情などの対立がある場合にどうするのかといった問題も出てくる。こうした個々の具体的な状況に即して内面的な葛藤や感動などを体験し、道徳的な価値の自覚を深めていくことによって道徳性が発達する。したがって、道徳性の発達には、人間らしさを表す道徳的価値にかかわって道徳的心情や判断力、実践意欲と態度などをほぐし、それらが一人一人の内面に自己の生き方の指針として統合されていくような働きかけを必要とする。」とある。つまり、道徳性とは、「道徳的諸価値が自己の内面によって統合されたもの」であり、換言すれば、道徳性の育成のためには、「自己の生き方の指針として、様々な諸価値を、具体的な状況に即して統合していく」ことが必要だと述べている。

さらに、「3 内容の取り扱仕方 (1) 関連的、発展的な取り扱仕方の工夫」には、「道徳の時間の指導に当たっては、項目間の関連を十分に考慮しながら、指導の順序を工夫したり、内容の一部を関連づけたりして、実態に応じた適切な指導を行うことが大切である。」とある。そして、「第3節 道徳の時間の目標 (2) 学校の教育活動全体で行う道徳教育を補充、深化、統合する」においても、「それぞれが持つ道徳的価値の相互の関連や、自己との関わりにおいての全体的なつながりなどについて考えないままに過ごしてしまうことがある。道徳の時間は、それらを統合し、児童に新たな感じ方や考え方を生み出すというような役割もある。」とある。

上記の内容から、道徳的価値そのものを連関、統合してその総体を道徳性として組織化(=道徳的価

値の自覚) できるような道徳の時間を構想することは、学習指導要領の理念に叶うものだと考える。「中心価値を単独で追究する道徳の時間の学習」だけではなく、「人の生き方に根ざしている一つの価値が、他のどのような価値に支えられることで行為として実現可能になるかを探求する『複数関連価値統合型』の道徳の時間」も指導過程のひとつとして取り入れられることが必要であると考え。

中心価値をその価値に内在する多様な視点や他の諸価値との関連で見つめ、自己の内面で統合する営みを保障し、中心価値の実現可能性を探究する学習を構想するためには、人の生き方を多様に考えることのできる資料が必要であり、その要件を満たすのが伝記資料であると考え。伝記資料を用いた人の生き方に学ぶ道徳の時間の学習においては、展開を心情の追究だけで通すことは適当ではない。それは、諸価値が複雑に絡み合った人の生き方について、ひとつの状況や価値の側面だけで考えさせ、価値をそれ単体で内面化させようとするだけでは無理が生じるという伝記資料の特質があるからである。

本題材では、小石川養生所の初代肝煎職である小川笙船の生き方を取り上げる。中心価値は内容項目4- (3)「役割・責任」であるが、彼の生き方について、この内容項目の側面だけを切り取って学習を構想したのでは、価値の自覚を深めることはできないと考える。小川笙船の生き方における「役割・責任」は、「真理の探究」や「生命尊重」、「公正・公平」などの諸価値と関連して成立している。後述するエピソードファイルの取り組みや展開の工夫を通して、これらの諸価値を中心価値と関連させ、統合する道徳の時間の学習によって、自らの生き方に根ざした価値の主体的な自覚を深めることが可能となると考え、本題材を設定した。

(2) 本題材における思考を高める学びのための仕掛けと子どもの協同的な学びの姿について

本題材、特に伝記資料における思考を高める学びのために、「エピソードファイル」という事前学習シート集を作成する。これは主に、「年表」、「エピソード」、「名言」の3つで構成されている。まず、対象となる人物の生涯を教材研究し、「年表」にまとめたものを作成する。最初に、年表で人物の生涯を概観することで、児童が人物の生き方に対するイメージを抱きやすい。次に「エピソード」では、人物の生涯を、伝記や評伝を元に短くまとめる。最後に、年表やエピソードでは書ききれなかった逸話や名言、交流のあった人物からの評伝などを「名言」としてまとめる。この「エピソードファイル」の目的は、授業で扱う人物の生涯に関する児童の知識を、ある程度揃えるところにある。学習中に児童が発言したときに、「今、この子はこのことについて話しているのだな」ということがすぐにつながり、話し合いがスムーズに行えるようにという意図である。また、一人の人間の生き方に内在する諸価値に、児童を意識的にふれさせ、「私はこの人のこの生き方に強く共感する」というこだわりを持たせることも期待している。人の生き方を俯瞰してみたとき、諸価値が重層的に（あるいはウェブのように）複雑に組み合わせられているように思える。それを、「エピソードファイル」によって解きほぐし、自分のこだわりへと焦点化させていきたい。この「エピソードファイル」の取り組みが、本題材において児童が主体的に思考を高める学びを作るための一助になると考える。

道徳の時間の学習において、子どもの協同的な学びの姿を求めるには、いわゆる「基本過程」ではなく、伝記資料を最大限に生かすことのできる学習過程が重要であると考え。私は、児童に協同的な学びを促すために、「①主人公の生き方に対する感想を交流し、本時の学習で追究する問題を焦点化する」、「②問題追究（感想交流で焦点化した問題を追究する）」、「③価値の主体化（人物の生き方から自分の生き方を問い直す）」という展開で授業を構想した。

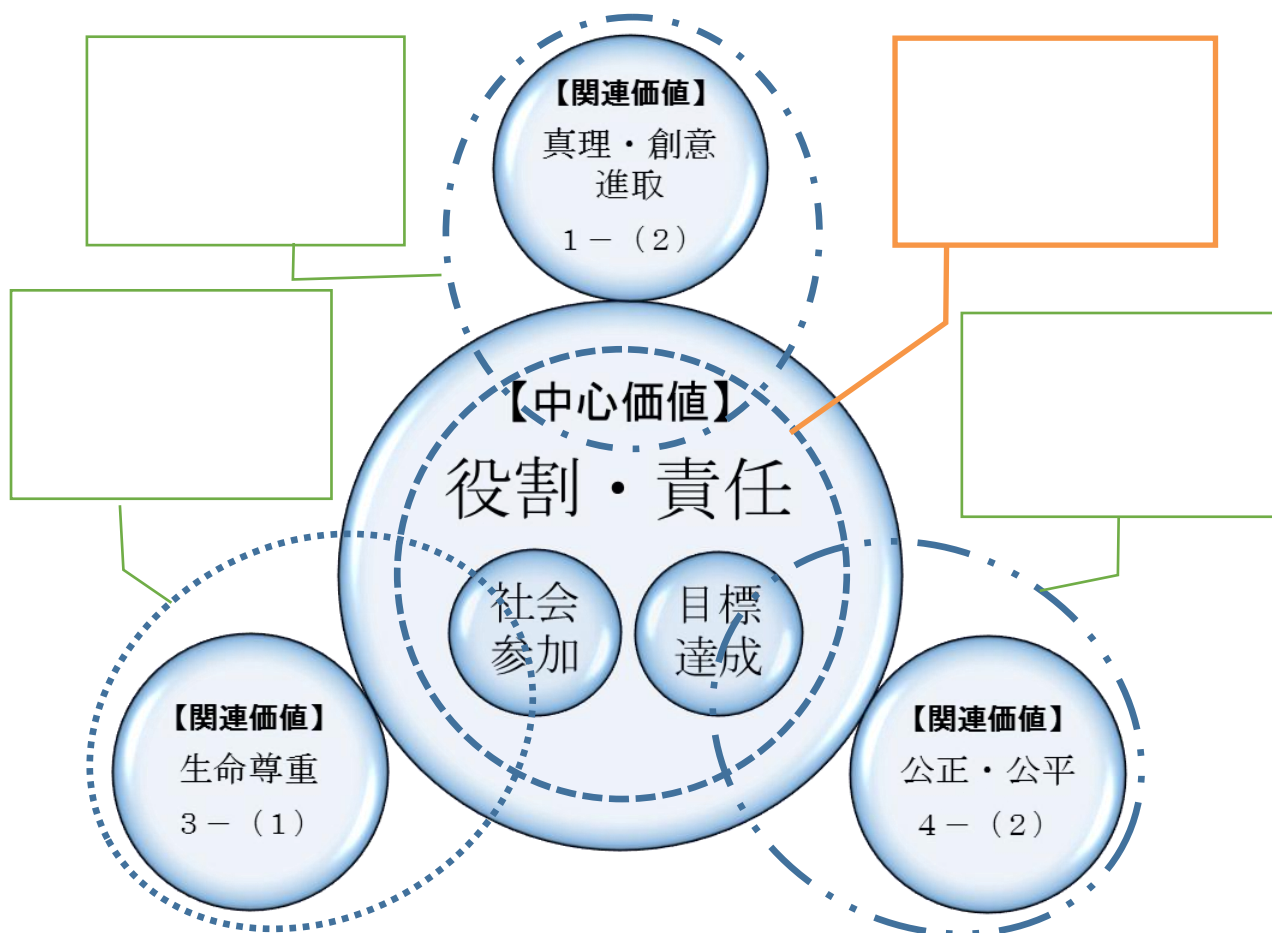
まず、感想交流では、人物の生き方に対する自分の思いを明らかにし、友達の思いと比べるなかで、本時の学習で追究すべき価値ある問題を明確化・焦点化する。これは、児童にとって自らが追究すべきと考えた問題であり、それが中心発問へとつながることで、より主体的に問題を追究することができる。

よって、感想交流は「言いつ放しの羅列ではなく、思いをつなぎながら追究すべき問題を明確にするために行う」という意図を明確に持ったうえで授業に取り入れることを大切にしたい。

次に、感想交流で焦点化した問題を追究する場面において、人の生き方に迫るために重要だと考えているのは、「児童が価値の構造を明らかにする協同的な学びを通して、人の生き方を支えた思いに迫る」ことである。基本型の展開では、主人公の気持ちを時系列的に問いながら考えさせるが、小学校学習指導要領解説道徳編にあるように、「道徳性が多様な道徳的価値に支えられて行為として表れる」のならば、価値単体をどれだけ追究しても、実生活では画餅にしかなり得ない。しかし、「人物の生き方を支えた思いに迫ろう」とすることで、児童は、人の生き方に根ざしている価値が他のどのような諸価値に支えられることで行為として実現可能になるかを追究し明らかにすることができる。

そして、人物の生き方から自分の生き方を問い直す価値の主体化の場面では、「人の生き方を支えた思いに多様に迫るなかで、自らがこだわりたいと考えた生き方を明らかにし、自分の生活のなかの具体的な場面に重ねて考えられるようにする」ことが重要である。ここでは、「①先人の行き方に根ざしている価値を行為として実現するために、自らがこだわりたい視点（他の諸価値）を明らかにし、②自分の生活のどのような場面で活かすことができそうか」について、ワークシートに書く活動を行う。展開前段での話し合いをふまえ、資料の人物の生き方を支えたものについて、児童それぞれの視点から多様に考えることが可能になる。これは、先人の生き方に関わる中心価値に関する生き方を、児童一人一人が実現するための扉を開く鍵である。そして、それをどんな生活場面で活かすことができそうかについて考えることで、反省調でもなければ決意表明でもない展開後段とすることができると考える。

4 本時の学習における価値の理解と自覚を深めるための価値関連構想図



5 本時の学習

(1) 本時の目標

江戸の町の状況を憂い、庶民救済のために小石川養生所の設立と運営のために活動した小川笙船の生き方に迫る話し合い活動を通して、自らの役割と責任を自覚して努力する小川笙船の生き方に共感するとともに、彼を支えていた思いについて自分の視点をもって考えることができる。

(2) 準備物

私たちの道徳 小学校5・6年生、道徳ファイル、提示用写真、ワークシート

(3) 本時の展開 (○教師の意図 ◇協同的な学びへの支援 ◆個の探求への支援)

学習過程	主な発問と児童の反応	教師の支援・意図
1. 資料範読 2. 感想交流による問題の 焦点化・共通化	1. 資料「小川笙船」を読んで、各自が感想をもつ。 2. 小川笙船の生き方に対して、どんな感想をもったか。 ・身寄りや金もない人にも手厚く診療をほどこしたことがすごい。 ・小石川養生所で、多くの患者の診察だけでなく、若い医者たちへの指導もしていたのはとてもたいへんだっただろう。 ・小川笙船が小石川養生所を作ることを将軍に訴えたのはどうしてだろう？	◇資料の内容を正しく共感的に把握させる。 ◇感想交流によって、児童の考えや思いをつなぎながら追究すべき問題を明確にさせる。 ○小川笙船の病人に真摯に対応する姿や小石川養生所での笙船の仕事ぶりなどに感想や問題意識をもつ児童が多いと考えられるので、問題をその部分に焦点化していきたい。
小川笙船の生き方を支えた思いについて、話し合い活動を通して迫ろう。		
3. 問題の追究	3. 町医者として十分に豊かな暮らしができるにもかかわらず、なぜ、笙船は小石川養生所の設立を訴えたのだろうか。彼の行動を支えた思いに迫ろう。 ・当時の江戸には、身寄りのない人や医者にかかる金もない人がいた。医者として、そういった人たちを見捨てることができなかったのだと思う。 ・江戸の町の大きな課題だった医療についての問題を、小石川養生所を作ることで解決できると考えたのだと思う。 ・お金がないことで、救うことのできる命が失われるのはおかしいと考えたのだと思う。小石川養生所があれば、貧しい人の命も救うことができる。 (補助発問) ※患者の診察だけでなく、なぜ、若い医者たちの指導までしていたのだろうか。 ・若い医者たちを育てることが、将来の江戸の町のためには必要だし、それが自分の責任だと考えたのだと思う。	○「病気から庶民の命を守る」という彼の思いが、私利私欲を捨てた医師としての使命感や責任感であることに、話し合いを通して迫らせたい。 ◆小川笙船の使命感や責任感を支えていたものについて、「社会参加や目標達成」という「役割・責任」をより深める視点だけでなく、「真理・創意進取」、「生命尊重」、「公正・公平」など多様な視点から考えることで、話し合いを深めることができるようにする。 ◆資料文はもちろん、エピソードファイルで学習してきた小川笙船像をもとに考えさせることで、彼を支えた思いについて、より多面的に考えを深めることができるようにする。 ◇小川笙船の「自らの役割を自覚し責任を果たす」生き方が、社会をより豊かにする改革へとつながっていったことを共感的にとらえさせ、価値の主体化へとつなげていく。

4. 価値の主体化	4. 小川笙船の生き方のなかで、「すごい」「まねしてみたい」と思ったところはどこだろう。そして、それは自分の生活のどんな場面で活かすことができるだろう。 小川笙船のどんな生き方 () 自分の生活場面にどう活かすか () (例) ・小川笙船の「みんなのために自分の責任を果たす生き方」がすごい。自分は学級の係の仕事でみんなのためにがんばることができると思う。 ・小川笙船が「常に命を大切に責任を果たそうとした」生き方がまねしたい。学校や家での動植物の世話を、責任をもって行いたい。	○人の生き方を支えた思いに多様に迫るなかで、自らがこだわりたいと考えた生き方を明らかにし、自分の生活のなかの具体的な場面に重ねて考えられるようにする。 ◆先人の生き方に根ざしている価値を行為として実現するために、自らがこだわりたい視点（他の諸価値との関連）を明らかにし、自分の生活のどのような場面で活かすことができそうかについて、ワークシートに記入する。そして、思いを語るなかでさらに自己の生き方について考えを深める。 ◇子どもたちがより多様な考え方を知り自分の価値観との違いを明らかにするために、挙手による指名だけでなく、意図的指名も取り入れる。 ○教師の説話を聞き、学習のまとめとする。
5. 本時のまとめ	5. 山本周五郎の『赤ひげ診療譚』を提示し、小川笙船が現代にもなお語り継がれている名医であることを紹介して本時のまとめとする。	

6 参考文献等

- ・『江戸の養生所』 PHP 新書 安藤雄一郎著
- ・『週刊江戸「小石川養生所の開設」』 デアゴスティーニ
- ・『江戸時代のすべてがわかる本』 ナツメ社
- ・『江戸のビジネスマン列伝(152)大岡忠相(13)町医者小川笙船の生きざま』 童門冬二
- ・『灯をかかげた人びとー1ー小川笙船』 山野光雄
- ・『史談往来／北から南から 掃苔行脚(12)「赤ひげ」のモデル小川笙船の墓』 加藤健太郎